

# Q & A

## 保護者との関係づくり こんなときはどうする？

子どもと同様、保護者の個性もさまざまですから、中には関係づくりに苦慮することもあるものです。当研究所に寄せられた保護者に関する悩みの中でも特に多かったものについて、3名の先生がたにアドバイスをいただきました。

### 1 生活習慣ができていない

**Q** 早寝早起きの習慣がなく、朝食抜きの子供がいます。保護者には声をかけていますが、なかなか改善しません。どうしたら保護者としての自覚を持ってもらえるでしょうか。



**A1** 大豆生田先生  
保護者の事情を理解して共感する気持ちを

「親がルーズだからだろう」と頭ごなしに否定せず、まずはそれぞれの家庭の事情の中で子育てを頑張っているという気持ちを持つことが大事だと思います。「いつも頑張っていますね」といった一言で、保護者は「もう少し頑張ってみよう」と思えるものです。  
保護者は保護者なりに困り、努力していますから、相手の立場を思いやって共感することから始めてほしいと思います。そんなやりとりを続けるうちに、保護者は「なかなか早起きできなくて困っている」などと自分から悩みを打ち明けられるようになるかもしれませんし、保育者のアドバイスも素直に受け入れるようになっていくと思います。

**A2** 遠山先生  
お願いするときは理由をいっしょに伝える

単に「朝ごはんは必ず食べさせてください」と言うのではなく、どうしてそれが子どもの育ちにとって重要なのかを理解してもらうことが先決だと思います。このケースでいえば、午前中はみんなで遊ぶ時間帯なのに、お腹が空いていけば元気が出てくなくてつまらない思いをしてしまいます。そのように根本にある考え方を理解してもらうことで、「忙しいけれど何とかしてみよう」という気持ちが自然と強まるのではないのでしょうか。  
また保護者に「指導」するという気持ちを持たず、ともに子どもを育てる関係として協力をお願いするというスタンスが大切だと思います。

### 2 保護者自身が判断できない

**Q** 「子どもが園服を着てくれないのですが、どうしたらいいですか」など、細かい確認の連絡が多く、「自分で判断してほしい」と思ってしまう。こうした保護者にはどのように接したらよいでしょうか。



**A1** 大豆生田先生  
保護者間の関係づくりが育児の不安を軽減

育児について相談できる人が周囲に少ない保護者は、不安になりやすいものです。育児書を開いても、我が子にぴったりと当てはまる答えが書かれているとは限りません。保育者としては、保護者の悩みを受け入れ、可能な範囲で答えればよいと思います。  
ただ、1対1の関係の中で何でも質問される状況では、保育者に負担がかかってしまいます。その点、保護者同士の関係ができていれば、「そんなの大丈夫」「うちもそうだった」などと経験を語り合い、安心できるようになります。保護者同士で解決できることも多いのです。

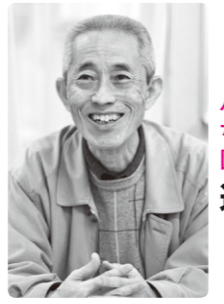
**A2** 鈴木先生  
子育ての責任も自覚していただくことが大切

朝、保護者から子どもが38度の熱を出していると電話があり、お休みの連絡かと思ったら「休ませたほうがいいでしょうか？」と聞かれて驚いたことがあります。このように保護者の判断に任せたいことを確認されるケースが増えている背景には、「誰かに判断してほしい」「私の声を聞いてほしい」といった保護者の依存心があると感じることがあります。例えば、「園服を着てくれない」という裏には、「子どもが言うことを聞かない」という心の叫びがあるのかもしれませんが。  
単に分からないときは、細かいことでも保育者は答えたいほうがよいでしょうが、過度に保育者に頼ろうとしている場合は、「子育ての一番の責任は家庭」と伝えていく必要があると思います。

## 回答者



玉川大学教育学部  
乳幼児発達学科  
准教授  
大豆生田啓友先生



バオバブ保育園  
ちいさな家  
園長  
遠山洋一先生



花の井保育園  
園長  
鈴木美岐子先生

### 3 特定の保育方法に傾倒してしまう

**Q** テレビなどの影響か、保護者から特定の保育方法を求められることが少なくありません。中には、園の活動を「遊んでいるだけ」ととらえている保護者もいます。どうすれば園の保育について理解してもらえるでしょうか。



**A1** 大豆生田先生  
遊びを通した学びの意味を地道に伝える

そういった保護者には、園の日常的な取り組みの意味がしっかり伝わっていないのかもしれませんが、だからこそ、テレビで紹介されるような刺激的な教育に飛びつきたくなるのでしょう。背景には、子育てなどいろいろなことへの不安があるのかもしれませんが。  
本来、幼児教育はゆっくりと成果が表れる地道なものです。園としては、遠回りに見えますが、自分たちが実践する教育・保育の意味を誠実に伝えることが大切です。園での遊びを通した学びは、すぐに成果が表れるものではありませんが、その後の人間的な成長の根っこを形成していくものであることを繰り返し発信していきましょう。

**A2** 鈴木先生  
専門職として必要性を精査すればいい

私の園では保護者会などを通し、園の理念や経営方針などを伝えていきます。「しっかりとした考え方を持っているな」と感じてもらえれば、こうしたケースはあまり起こらないと思います。  
それでも要望があったときは、否定せず、専門職の観点から子どもに必要なかどうかを精査します。そして必要と判断したら子どもの実態に合った形で導入を検討し、不必要ならば保護者に改めて園の理念や方針を伝えます。こうした要望を寄せてくださるのは、子どもの教育に関心をもっていらっしゃる証です。「言ってくださってありがとうございます」というスタンスで接すれば、保護者の気持ちを害することもないと思います。

### 4 保護者の心が不安定である

**Q** うつや育児ノイローゼなど、精神的に不安定な保護者への適切な対応について教えてください。



**A1** 遠山先生  
先入観をもたず、まずはゆっくりと話を聞く

最近「〇〇症候群」などと、いろいろな症例の名前がありますが、まずはそのような先入観にとらわれずに、ゆっくりと話を聞くことが大事だと思います。その保護者の事情や悩みを理解しアドバイスすることで、状態が改善することもあるでしょう。  
担任一人では対応が難しいと感じたら、一人で抱え込まず、ベテランの保育者などに相談してチームでかかわることが大切です。さらに、状況が園の力量を超える場合は、無理をせずに医療機関などの専門家と連携してチームで対応すべきだと思います。

**A2** 鈴木先生  
「ここは安心してよい場所」というメッセージを

ストレス社会にもまれながら子育てをする保護者のつらさを受け止め、じっくりと話を聞いて、「ここは安心してよい場所ですよ」というメッセージを送ることが大切だと思います。そのようなかわりに安心感を抱いて落ち着きを取り戻す保護者は少なくありません。  
しかし、そうした保護者への対応は時間も労力もかかります。保育者が一人で抱え込むと相当な負担になりますし、客観的に見られなくなるおそれもあります。職員間で情報を共有し、園全体でサポートしていく体制が不可欠といえるでしょう。